

70歳以上の8人に1人は緑内障

視覚障害を引き起こす原因が、糖尿病網膜症を抜いて緑内障が1位となりました。緑内障は、眼圧等によって視神経が障害され、視野が狭くなったり、部分的に見えるなくなったりする病気です、ついには失明してしまふことがあります。

緑内障の初期、中期の多くは、眼痛、視力障害などの自覚症状はありません。私たちは両方の目で補いながら物を見ています。絶えず目は動いているため、視野狭窄を自覚することは稀です。

失われた視野は、元に戻り復できません。病気が進んで視野を失う前に緑内障を見

# 教えて ドクター

10



## — 加齢による眼病(緑内障) —

緑内障は、  
自分では気づきにくい  
身近な病気

つける唯一の手段が、定期的な眼科検診を受けることです。緑内障は、40歳以上の20人に1人、70歳以上では8人に1人と誰でもなりうる病気です。40歳を過ぎたら年に1回眼科受診を受ける必要があります。

### 診断のアプローチは、まず眼底検査

眼底検査で、直接約120万本の視神経繊維が集まっている視神経乳頭の陥凹を観察します。緑内障の視神経乳頭部は、視神経線維の数が減るに比例して、視神経乳頭の陥凹部が正常者より拡大しています。また、陥凹部の蒼白化、視神経繊維欠損の部に一致し、楔状あるいは扇状の陰影が網膜面に見られます。

### 診断の確定は視野検査

人間ドックなどの眼底検査の結果、視神経乳頭の陥凹の拡大と評価された人が、視野検査を行います。視野は、網膜や頭蓋内の病気が反映するので、他の病気が否定でき、特徴的な視野狭窄が認められた人が、初めて緑内障と診断されます。

### 治療の指標は眼圧検査と視野検査

眼圧測定で緑内障を診断することはできません。眼圧の正常値は、一般に10〜21mmHgですが、日本人の緑内障の7〜8割が正常眼圧緑内障、つまりいつ眼圧を測っても21mmHg未満の緑内障です。視神経乳頭の強さは、人それぞれ異なり、構造的に弱い場合、正常な眼圧でも視神経が障害さ

れます。逆に21mmHg以上の高眼圧でも視野狭窄が見られない高眼圧症の概念があります。

緑内障の治療は、21mmHg未満の眼圧なら問題ないということではなく、視神経乳頭の陥凹の進行が停止するまで、言い換えれば視野狭窄の進行が停止するレベルまで眼圧を下げることです。各個人の視神経がどのくらいの眼圧に耐えられるかは、年齢、近視の程度、高血圧・心疾患、糖尿病などによる網膜細動脈硬化の程度、眼疾患の合併、眼内手術後などにも影響され個人により大きく異なります。さらに、治療前の眼圧値が異なれば、視野狭窄の程度による病期や進行も異なるので、治療目標の眼圧値は人それぞれ異なります。眼科専門医が判断することになります。

緑内障は、慢性に経過する進行性の疾患で、8割の人が眼圧が正常範囲内で発症し、かつ自覚症状がないことが多いため、正常眼圧緑内障の8〜9割の人はいまだ未治療とされています。

中高年の目の病気は、早期発見で視野狭窄や失明を防ぐため、眼科専門医で検診を受けましょう。さらに、緑内障と診断された人は、継続的な治療が重要です。



医学博士 川久保 洋 先生

1959年生まれ。川久保眼科院長  
さいたま市立病院眼科医長  
駿河台日大病院眼科外来医長を経て、  
現在に至る。  
駿河台日大病院眼科兼任講師  
日本眼科学会専門医。

# 川久保眼科

眼科、日帰り白内障手術、オルソ・ケラトロジー(角膜矯正療法)、  
ボツリヌス毒素治療、コンタクトレンズの処方



※JR京浜東北線浦和駅東口よりバス10分。「太田窪」バス停徒歩2分。

- 診療時間 午前 9:00~12:00 午後 14:00~18:00
- 休診日 日曜祝日、土曜午後、および第1・2金曜日午後

## 川久保眼科

〒336-0936 さいたま市緑区太田窪3-8-3-2F

TEL: 048-885-5422 FAX: 048-885-5422 kawakuboeye.webmedipr.jp